

令和6年度第2回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和6年11月19日（火） 14：00～15：40

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 委員6名 事務局5名

（委員） 米谷 啓和 座長 三宅 靖子 委員 大西 麻衣子 委員
中安 学 委員 八田 友和 委員 本上 聖子 委員

（事務局） 市民参画部 岸本部長 市民活動推進課 門口 課長
市民活動・ボランティアサポートセンター 岸本 所長 吉田 係長 杉尾 主事

次 第

1 開 会

2 議 事

報告

- （1）夏休みボランティア体験学習の結果について
- （2）ひめじ de ボランティア 2024 の進捗状況について

その他報告事項

- ・ボラスト！in ひめじの利用状況について

3 閉 会

会議の進行記録（要点記録）

座 長： 本日は議事・報告事項 2 点とその他報告事項で合計 3 点。ご意見などいただきたい。

事務局： 資料に従って説明

（1）夏休みボランティア体験学習の結果について

座 長： 昨年度より団体数や参加者が増え、多くの学生にボランティア体験をしてもらったのではないかと思う。

構成員： 「夏ボラ」をきっかけに参加された方が活動を継続しているかの把握はされているか。もし把握されているのであればどういう経緯で継続につながったのかを教えてください。社協も今回参加したが、少しその部分が弱かった。

事務局： 全てを把握していないが、里山整備の団体では「夏ボラ」の体験者が引き続き来たいという申し出があり現在も関わりを持っておられるようだ。また、「ひめボラ」取材時に、ゴミ拾いのボランティアで「夏ボラ」から続けているというお話も聞いた。当初から活動に前向きな方は継続している印象。

座 長： 参加された学生に団体から継続的に情報がいく仕組みはセンターとしてあるのか。

事務局： 体験後の接触は団体に任せている。

座 長： 体験者のアンケート結果の〔今後の活動について〕の箇所では 8 名が今後も継続して参加したいと回答しているが、その後の追跡はしているか。

事務局： 無記名のアンケートのため追跡はできていない。

座 長： 鳥取の海士町でセミナーを受けてきたが、アンバサダー制度という仕組みがあった。登録すると LINE で海士町のイベントなどの情報がプッシュされてくるもの。個別の団体でそれをするのはハードルが高いので、そこをセンターとして支援できるのでは。

構成員： 体験者数が昨年度より大幅に増えているのでボランティアの間口が増え、最初の一步としては良かった。二歩目以降は先程の継続性の話で、SNS のフォローや LINE 登録を促す情報発信は、センターとして難しいので団体がすべきだと思う。

それに対しさらにセンターからの支援があれば継続性が高まるのでは。

座 長： 受け入れ団体としての感触はどうか。

構成員： 「夏ボラ」でプログラムを提供して継続してもらえるよう案内はしているが結果には繋がっていない。体験後にその場で振り返りを行い、おもしろかったとか綺麗になって良かったなどの意見は聞いているが、継続という点については正直難しい。

座 長： 自団体も参加してもらえそうな企画があれば「夏ボラ」に参加したい。11月の「ひめボラ」は企画があったので登録させてもらった。
登録する側としては何を目的に登録するのか。例えば手伝ってもらおうと助かるという話なのか、若い人に機会を提供しようという話なのか、正直来てもらわなくてもできるが若い人に経験してもらい自分の団体だけでなく将来的に彼ら彼女らの人生に役立つのではないかという話なのか。

構成員： それは団体によるかもしれないが、私達は「夏ボラ」は学生がメインで、夏の暑い時期の掃除は大変だが、若い人に参加してもらえると今後に繋がるかなという思いで行っている。

構成員： 私達は社会福祉協議会に来ていただくのではなく、社会福祉協議会の支部でボランティア体験をしてもらっている。これは反省点だが、学生が継続して来ているかと言われると難しい面がある。社協の意図としては続けて来てもらいたい、そのきっかけになればという思いがあるが、来られる方は遠方の方や市外の方であった。受け入れ側としても地元のボランティアに来てもらいたいという思いもあり、なかなか噛み合わない部分があるので続いていないのではないかなと思う。もし続いている秘密があれば知りたいと思い質問させていただいた。来年度はもう少し工夫したい。

構成員： 「夏ボラ」は学校などに広くアプローチを続けており、今回も学校からの紹介で参加した学生が18名いるが、学校側のボランティアの意識が浸透してきたのではないかなと思う。「夏ボラ」は夏休みを利用しているので広く学生の皆さんに体験してもらうことが一番大きな目的だと思う。そのまま継続すればベストだが、まずは間口を広げ体験してもらおうということが重要だと思う。その部分を拡大して定着させ、もっと多くの団体にも伝わるような活動をすることで学校側の意識も高まり、更に学生に周知してもらえるのでは。また、学生に来てもらえるように

学校だけでなく団体としても意識が高まれば良いのではないかと思います。継続されるかどうかは次の段階になるのでそこは仕組みを考えていかないといけないと思うが、ひとまず「夏ボラ」としては良い方向になっていると思う。

構成員： 生徒に教科書があるように、教員の教科書として学習指導要領がある。私達はそれに基づいて活動をするが、ボランティア活動もそこに位置づけられている。私の専門は博物館と学校教育で、博物館と学校教育がいかに連携できるかであるが、連携できている先進的な事例としては、博物館の担当者が学習指導要領を読み込み、5年生で身につけるための勉強は何かを把握し、それに見合う博物館の資料などの提示をして学校側にアプローチしていた。学習指導要領を精読する必要はないが、概要だけでも知っているとおアプローチが少し変わってくるのではないかな。例えば学習指導要領の中でのボランティア活動は地域の課題を発見し対策・実践して地域に参画するというのが一つのパッケージ。「ひめボラ」も含め全て実践のところがメインとなっており学校としては使いにくいので、参加者0の学校もあるのでは。ただ、ボランティアは本来生徒が自主的・自発的に参加するもので、学校の授業で使うものが全てではないが、学校の教育活動の一環として展開し、かつ継続を目指していくのであれば、学校の中のことが分かったと開ける道があるかなと思う。

座長： センターでは体験の団体が決まった段階で学校への情報提供はしているか。学校や国などから求めているものと団体が提供できるものとの繋がりができれば良いが。

事務局： 「夏ボラ」は、募集と情報提供のスケジュール感が難しいと毎回思っている。「夏ボラ」ではなく「ひめボラ」の話になるが、小学校や中学校の校長会で説明する際には、トライやる・ウィークの受け入れ先として「ひめボラ」で良い団体に出会えるかもという案内をしている。

座長： 体験者アンケートのQ4[何で知りましたか]の箇所でも半分以上が学校からの紹介というのはどういう仕組みなのか。それは広報活動の媒体には書いていないが。

事務局： 配布先までは書いていないが市内外52校の学校にはプログラム、チラシ、ポスターを直接郵送している。

座長： 学校への送付や広報ひめじにも載せて広く広報したことが効果的だったということか。学習指導要領の読み込みは、良い意見なので来年の募集の段階で活用すると効果的なのでは。

構成員： 私達が研究でアンケート調査を依頼する時に、意外と効果的に繋がっていくのが退職校長会という団体。退職した校長先生の集まりであるが、校長会で依頼するよりもアンケートなどの回収率が高い。退職した校長先生も学校との縁は切れておらず情報を伝えてくれているので、そのような団体に協力をあおぐという方法もある。

事務局： 退職校長会とはどのような集まりか。

構成員： 具体的には分からないが正式な団体として活動しているところもあると思う。市町村ごとにあり個人が事務局となっている。

座 長： 校長先生は退職後、地域の公民館長をされる方が多いので、自治会には繋がりやすいと思う。

構成員： 大学でも掲示板等にポスターなどが貼られているが、実際どれくらい学生が参加しているか分からない。ボランティアや夏祭りなど地域を手伝ってもらいたいという依頼があった際は教員が間に入っている。学校という場所が「夏ボラ」などを知るきっかけになっていると聞いたので学生たちにもアピールしていけたら良い。

大学でもボランティア活動論など教科の中にもボランティアに関する学習をしており、そこと紐づく積極的に学生たちが活動しやすいと思う。単位が取れるから行くのは本当のボランティアではないが、知るきっかけになったり色々な活動でコミュニケーションを取れるというのは学生にとっても非常に良い。コロナ禍を経験した学生たちは人との関わりがうまくできないという課題があるので、掲示板に掲示しているだけでなく、うまく繋がれたら良い。

座 長： 団体アンケートの Q5 の箇所で、“毎年女子には来てもらっているが、男子に来てもらうにはどうしたらよいか” というのはどこの団体か。

事務局： 福祉施設だが、基本的に福祉施設は女子生徒がほとんど。体験者の総数としても全体的に女子の方が多いという印象。男子はゴミ拾いなど気軽なものに参加する傾向があり、女子は一人でも参加したいという前向きな生徒が多い。

座 長： (米谷委員) 体験者アンケートは文章で感想をもらえていてリアクションとしても良いが、羅列ではなく前向きな意見や提案型のような意見の 2 つに分けると、課

題が浮かび上がるのでは。

事務局： 資料に従って説明

(2) ひめじ de ボランティア 2024 の進捗状況について

座 長： 「ひめボラ」は未だ進行中であるが、皆さんのご意見をいただきたい。

構成員： 自団体は「ひめボラ」に参加し、7、8名来られたが好評だったのではないかと
思っている。

座 長： ボランティアの方に情報を伝えて来てもらう仕組みとしてはどうか。

構成員： 受け入れ側としては「ひめボラ」も「夏ボラ」もさほど変わらない。若い方も、
大人の方もたくさん来られ、色々な意見が聞けた。

構成員： 昨年度参加してくれた方で続けてくれた方があった。ふれあいサロンという地域
の方々が集まってお喋りをしたりする場だが、親子で参加され、楽しかったとい
うことで続けてくれたが、地元の方ではなく遠方の方であった。そのため受け入
れ側の方が遠くから来てもらい申し訳なくなり、先細りになっている。社協支部
の活動は一般のボランティアグループと少し違う面があるので、地元が違う方で
も繋がってもらえるように職員が現場に赴き、声掛けを丁寧に行っている。ただ、
どの程度繋がりができたかとなると不明だが、良いきっかけにはなっている。

座 長： 社協支部は各小学校区の自治会・公民館ごとか。

構成員： 概ね小学校区を単位として自治会や民生委員、地域のボランティアの協力を得て
行っている。

一番良いのは地元の方が来てくれること。社協支部の活動は地元の方が自分たち
の地域を良くするために活動しているものなので、遠方の方を受け入れていない
ところもある。校区外の方でも受け入れているところもあるが数が少ない。若い
方や福祉に関係ない方、ボランティアに携わったことのない方などが「ひめボラ」
などをきっかけに来てもらい、社協支部活動を知ってもらえたり社会福祉協議会
を知ってもらえる、大変良い機会にはなっている。

構成員： 来場者として「ひめボラ市」に参加した。おてがるカリンバ協会では初めてカリ
ンバに触れてみたが、皆さん終始楽しそうにしていた。別団体では商品を購入す

るとすごく喜ばれた。自分たちが作ってデザインしたものが売れる、人に買ってもらえるというのがすごく嬉しいことだと思う。そういうきっかけがあるのは素晴らしい。今回は「ひめボラ」の応募者が少し減ったということであったが、自身が嬉しかったり感動したことを口コミで横に広げていけばこれから増えると思う。今は増減や微減などを繰り返すと思うが、これからはもっと増えていくのかなと参加して思った。

事務局： 今年度は「ひめボラ市」の参加団体アンケートに販売ブースの概算売上額を追加している。ブースの場所がどこにあるかで人の流れや金額なども違うと思う。「ひめボラ」で福祉施設へ取材に行った際、“以前は福祉まつりが大手前公園であったが現在は祭りに出展する機会がなくなっているから喜んでいる”という意見や、“出展料が取られることも多々あったが無料で出展できるのはありがたい”という意見があった。アンケート結果を見てもそうだが、参加団体には概ね満足して喜んでもらえているかなという感想。

構成員： 私も撮影班として参加して団体とお話したり買い物をしたが、物販ブースでは団体から“参加して本当に良かった”という声や“すごく売れていて良かった”などの声があった。作業所は土日祝日などが休みなのでわざわざ出てくるのがしんどいと言われた方もあったので、ひめじおんまつりは作業所などの参加が少ないと思っていた。「ひめボラ市」の形にしたら喜んで出てくれるところもあるのだと思い、良かったなと思った。昨年度よりも準備や全体進行がスムーズで一体感も出ていたと感じた。

構成員： 児童センターが参加していたのはどのような状況であったか。

事務局： 児童センターは部活動のような活動をされており、「ひめボラ市」では華やかなダンスを踊ってくれていた。ステージでは児童センターの方は別の団体の演奏に合わせて踊ったりよさこいの団体が2つあったがコラボしたりと、皆さん協力してくれていた。

また、児童センターは子どもと親と一緒に学びを通して健全な育成を行ったりコミュニケーションを取る場だが、「ひめボラ」では実際にボランティアに行ってもらい子どもと遊んだりお手伝いをしたりと、スタッフの方と同じような活動をしてもらっていた。

子どもと親とのふれあいの場を大切にされており色々な活動をされているが、“中学生・高校生・大学生にも来て欲しい、特に大学生であれば色々なことを企画して一緒にすることで地域の居場所や拠点になりたい”と熱心に話をされていた。

姫路獨協大学や兵庫県立大学の大学生に来てもらい、児童センターの運営をもっと展開するために学生目線で考えてもらえるような会議をしたいが機会がないとお話があった。

座 長： 開催時間を 30 分遅らせたのはどうだったか。

事務局： 昨年度に設営準備が大変だったということがあり 30 分遅らせたが、昨年度の反省を踏まえ、準備も効率的に分担してできたという面ではゆとりがあり良かった。団体の中には“15 時 30 分頃の時間帯が人通りが多いので終了時間を延ばして欲しい”という意見やステージでは“午前中は人が少ないので午後からにしたらどうか”などの意見があった。来年度の開催時間については未だ検討中。

事務局： 「ボラスト！in ひめじ」の利用状況について報告

「ボラスト！in ひめじ」は姫路市民アプリ「ひめパス」を活用したボランティアデジタルスタンプラリーで、センターが指定するボランティアメニューで活動していただいた方にスタンプを付与し、2 つ以上たまるとセンターオリジナルデザインの活動履歴証明書をお送りするもの。「夏ボラ」や「ひめボラ」はボランティアを始めるきっかけづくりを目的にしているが、その後の継続性を目的としている。ラジオ体操のスタンプカードのように活動してスタンプをもらい、活動履歴が残れば就職活動や進学にも利用できる他、達成感にもつながるのではないかと考えている。8 月から運用開始しており、11 月 15 日現在の実績はアクセス総数が 1238 名、延べスタンプ取得者数が 219 名、取得者実数が 126 名、活動履歴証明書申請数が 9 件。対象のボランティアメニューは 8 月中の「夏ボラ」、11 月中の「ひめボラ」、11 月 3 日開催の「ひめボラ市」、通年参加可能な「ハジメのイッポ」。取得者数に比べ証明書申請数が少ない印象があるが、活動履歴の証明のため「ひめボラ」終了後や年度末に申請される方もいると思われるため後半はもう少し伸びる予測。「ボラスト！in ひめじ」があまり広まっていないのが現状であるため、引き続き広報活動に力を入れる。

事務局： 「ボラスト！in ひめじ」は初めてボランティアをする方を受け入れる団体にメニューを提供してもらっており、そこで活動した方限定なのでボランティアメニューが限定されている。市長名で証明書を発行するためセンターとしてボランティア活動を行った確認ができる形をとっている。

事務局： 告知をどのようにするかが課題。テレビ取材も受け積極的に伝えてもらったり登録団体にも説明用紙を送ったりしているが浸透していない。運用開始と「夏ボラ」

開始が同じくらいの時期だったので団体にも告知があまりできておらず、活動の際に二次元コードを持ってきていない場面があった。団体に取材に行った際は参加者にも説明できるが、団体からすると自団体の活動に重きを置いているため「ボラスト！in ひめじ」の告知まではできにくかったという印象だ。

座 長： 今年立ち上げの年なので、来年度から本格始動という感じか。これはアプリで参加できるボランティアが探せるというものか。

事務局： マップ上でエリアをタップすると募集している活動メニューが出てきたり、ジャンルごとに検索して一覧表で探すこともできる。

座 長： 活動履歴証明書が役に立つ方はどのような層か。

事務局： 主に就職活動や進学に利用される学生が多い。また、頑張った証として表彰状のようなものがもらえて嬉しいという子どももいると思う。9 件しか申請がないためあまり分析はできていない。

事務局： 申請まではしなくとも、スタンプがたまりアプリの中に履歴として残るので、いつ、どこで、何をしたという履歴が手元に残って後で見返せるというメリットは学生に限らずある。

構成員： 長い目で見ることが必要。単年度で見られるものではないので、当面継続を頑張ってもらいたい。

構成員： このアプリは姫路市民が使うアプリか。

事務局： 姫路市民向けではあるが限定はしていない。他市民でも活動履歴証明書は住所入りで発行できる。

構成員： 姫路市民アプリと書いてあると、姫路市民が使うアプリかと思う。例えば、姫路駅近くの高校に通う人は姫路市外がかなり多い。利便性が良く集まりやすい、かつボランティアに参加しやすい環境があるため姫路市外の学生も多く利用できると思う。しかし、アプリにデジタル市民カードなどの項目があると姫路市民のアプリかと思うので高校生がアプリを利用するとなるとハードルが高いと思う。

事務局： アプリ自体はセンターのものではなく、姫路市の事業に使われるものなので姫路

市民アプリとなっている。登録は誰でもできるが名前が姫路市民アプリのため誤解を受ける可能性はあると思う。

座 長： ボラスタ！in ひめじについてはいずれ全体像を踏まえて協議したい。報告事項は以上で終了。その他資料についてご説明をお願いしたい。

構成員： 私からはウェーブレットを提出しているが、現在個人ボランティアでウェーブレットの編集委員をしている。企画を出し、記事を担当し、取材や記事の作成をしている。また、総務省から委嘱される行政相談員や姫路市の行政相談委員もしている。駅前市役所や本庁で月 1 回相談を受け付けている。

座 長： 行政相談とはどのような相談か。

構成員： 基本的には国や市、行政に対する相談や苦情対応となっているが、来られる方はどこに相談していいか分からないという方が多く、何でも相談的な感じでくる。

構成員： 昨年と同様に阪神淡路大震災に被災された方を中心に聞き取り調査をした。昨年は全国の専門家の方々や国会図書館などを訪問したが、一番多かったのは継続しないと意味がないという意見であったこともあり、2024 版を作った。微々たるものではあるが継続していくことで最終的に防災や災害の記憶を後世に伝える資料になったら良いと思っている。

構成員： 今週の日曜日に私が地元でしているイベント（こうでらごじゃまぜふえす）があるのでチラシを提供した。香寺町は中心地から離れており姫路市の一部となると小学校区をまたいだ繋がりがなくなってしまった。そこで福祉と健康を切り口にイベントを開催する。

座 長： では、今日はこのあたりで閉会としたい。